

海部会長 新年の挨拶



2021年の年頭にあたり、みなさまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

昨年、世界は新型コロナウイルス感染症の拡大という極めて大きな災禍に見舞われました。新型コロナウイルスの感染者は、わずかな期間で世界中に広がりました。グローバル化により移動が容易になった反面、感染症の拡大を防ぐことが困難になっております。外出禁止・活動自粛は、感染症拡大防止のためやむを得ないとはいえ、社会的・経済的弱者に深刻な影響を及ぼしております。また、ワクチンが開発されたとしても、それが途上国に行き渡るのか懸念されます。英国のブラウン元首相は一つの国で対応できる問題ではないとして、主要国指導者に一時的な世界政府設立を呼びかけました。パンデミックを引き起こす感染症は、まさに国家を超えた対応を必

要としています。

地球温暖化を例にとると、国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) によれば、気温上昇を産業革命前に比べて1.5度にとどめるには、世界の二酸化炭素 (CO2) 排出量を2030年までに10年比で45%削減し、2050年ごろまでに実質ゼロにする必要があります。しかし、各国は温暖化対策で自国経済に影響が出ることを恐れ、十分な対策をとっていません。現在、各国がパリ協定に基づいて提出している国別目標を足し合わせたとしても気温上昇を抑えるには不十分です。アメリカ新政権がパリ協定復帰の方針を示したこと、菅総理が2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにすることを宣言したことを私たちは歓迎します。ただ、各国の指導者次第で方針が左右される状況では、また逆戻りする危険性もあります。国家を超えた課題には国家を超えたシステムが必要です。

一昨年日本大会の講演でフェルナンド・イグレスアス氏が述べたように、21世紀の科学技術や経済は19世紀の制度とは両立できません。グローバルな社会はグローバルな政治的枠組みを必要とします。民主制をローカルからグローバルなレベルに持ち上げなければなりません。

核兵器禁止条約は昨年10月に批准国が発効要件の50カ国に達し、本年1月22日に発効しました。核兵器禁止条約は、非保

有国による開発・保有を禁止するのみならず、保有国が保有する核を解体していく義務にも触れた画期的なものです。私たちはこの歴史的展開を歓迎するとともに、ここに関わった被曝者・市民・NGO・政府関係者など地道な努力を続けてきた全ての関係者に敬意を表します。核保有国は条約に反対の立場をとっておりますが、核保有国が核を保有したまま、非保有国が核を保有することを禁止するというのは説得力を持ちません。核不拡散条約においても、非保有国の保有を禁じるのみならず、前文においてすべての核兵器の廃棄を目指し、第6条において誠実に核軍縮交渉を行うことを義務づけています。核兵器禁止条約は、核不拡散条約第6条が誠実に履行されていない状況で核不拡散条約を補完するものです。核兵器は、国家や国際関係における安全保障とはなりません。私たちは核のない世界、核の必要のない世界を構築していくべきです。

私たちによる三四半世紀にもわたる運動の中で、自治体における取り組みでは1都2府25県208市区町村において世界連邦自治体宣言がなされ、国政においても2005年には衆議院で、2016年には参議院で世界連邦国会決議がなされました。この決議の中では、わが国が率先垂範して人類の平和のために努力すること、国際機構の改革強化、国際法の発展、核兵器廃

絶など軍縮外交の推進、人間の安全保障の実現を含む世界連邦実現への道の探求に努めることなどがうたわれています。

私たちは、今こそ決議に込められた理念を実行に移す時であるとの認識のもと、国内外の関係団体と連携し、世界連邦実

現のための運動を力強く推進します。みなさまには志を共にし、さらに関心を深め、意欲的に取り組んでくださるよう希望します。

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の気配を見せず厳しい状況が続いてい

ます。くれぐれもご健康と感染症対策にご留意ください。

世界連邦に関わるみなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

国連創設75周年記念事業を二日間にわたり開催

第一日目 参議院議員会館特別会議室で「平和フォーラム」

第二日目 京都芸術大学で「藝術文化学術フォーラム」



2020年11月18日と19日、世界連邦日本国会委員会・京都芸術大学の共催、外務省・日本国際連合協会・国連広報センターの後援で国連創設75周年記念事業が行われた。18日には参議院議員会館特別会議室で「平和フォーラム」が行われ、19日には京都芸術大学で「藝術文化学術フォーラム」が行われた。

紙面の関係で今回は初日の「平和フォーラム」について掲載し、二日目の「藝術文化学術フォーラム」については次号に掲載する予定である。

初日は、参議院議員会館を会場にして、政策的な議論をすることを目的とした「平和フォーラム」を開催した。世界連邦日本国会委員会の谷本真邦事務局次長が司会を担当し、冒頭に同会の衛藤征士郎会長、中川正春事務総長から開会の挨拶があつ

た。また政府から井上信治内閣府特命担当大臣、後援団体の外務省からは宇都隆史外務副大臣が挨拶。世界連邦の関連団体からも世界連邦宣言自治体全国協議会の山崎善也会長が挨拶。各位の挨拶では、世界連邦は、国際連合創設75周年の今年、コロナ禍など混迷する国際情勢において、マルチな世界の連帯への道筋を追求すること、法の支配やSDGs(持続可能な開発目標)達成のために国際連合と日本は最大限の力を尽くすべきだということなどが述べられた。

また、翌日に京都芸術大学でも国連創設75周年事業「藝術文化学術フォーラム」が開催されることから、丹羽貴大(にわあきひろ)同大学副学長より「国連創設75周年記念事業を世界連邦日本国会委員会といっしょに開催できることを喜んでいる。本学は『芸術立国』を理念に建学され、今

後も世界に向かって、SDGsを呼び続けていくので末永くお付き合いください」という趣旨の挨拶があった。



衛藤征士郎会長



中川正春事務総長



井上信治内閣府特命担当大臣



宇都隆史外務副大臣

続いて、国連75周年記念担当事務総長特

別顧問のファブリツィオ・ホスチャイルド国連事務次長、ハイディ・ハルタラ欧州議会副議長、ケイ・ララ・シャナナ・グスマン東ティモール民主共和国 (TL) 初代大統領の 3 氏からビデオ参加があった。ホスチャイルド氏は、国連創設 75 周年にあたってパンデミック対応の役割や気候問題などの国際問題や多国間の連帯の重要性について述べた。

挨拶後、国連事務次長のデイビット・マローン国連大学学長による基調講演が行われた。マローン国連事務次長は講演で以下



マローン国連事務次長

のように述べた。「国際連合は第二次世界大戦後の 1945 年に国際連盟に代わって創設されてから、あらゆる問題をカバーして取り組んできた。日本が戦後復興をしている時には、当初は意図していなかった東アジアの植民地の独立もみた。日本は国連に加盟後、多大な貢献をしてきた。国連大学も寛容な日本のお陰で恩恵を受けている。2000 年からの『ミレニアム開発目標』を経て、2015 年からの『持続可能な開発目標』を発表した。国連が運用上、最も成功しているが、忘れられがちでもある分野は、人道的行動と、国際的アクターの調整である。現在、重要な国のリーダーが権威主義的になっているが、国連にとって、日本は非常に良いお手本となっている。気候変動については、手遅れになる前に行動を起こすことを促したい。どの加盟国が負担や責任を負うべきかについて互いに議論し続けていて、国連はこの分野でさほど効果的な役割を果たすことができなかったが、ようやく 2015 年にパリ協定が結ばれた。国会でこのようなフォーラムが開催されることは、議論を前進させるための良い機会だ。目標にコミットすることは素晴らしいことだが、同時に私たちがいま行動を

変えない限り、目標は達成されないということも強調したい。」

ビデオメッセージやマローン氏の講演を受けて、各政党代表から意見表明が行われた。発言者は、自民党からは元衆議院議長の伊吹文明顧問、立憲民主党からは幹事長の福山哲郎副会長、公明党からは佐藤茂樹党外交安全保障調査会長、日本維新の会からは幹事長の馬場伸幸副会長、共産党からは笠井亮副事務総長、社民党からは党首の福島瑞穂常任理事、以上 6 名である。

第二部では元国連事務総長特別代表の長谷川祐弘氏をモデレーターとして、「国連を中核とした多国間主義をどのように再構築して地球規模の脅威と課題に対処するか」との演題で感染症・軍縮・環境・国連改革の四つをテーマにパネル討論を行った。



伊吹文明氏 (自民)



福山哲郎氏 (立憲)



佐藤茂樹氏 (公明)



馬場伸幸氏 (維新)



笠井亮氏 (共産)



福島瑞穂氏 (社民)

<感染症セッション>

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長が出席し、「かつては WHO の存在感は高かったが、今は分断が起こっている。各国でどのような対策に効果があったのか、無症状の感染者にはどのような特色があったか、二次感染を引き起こす場合の特色は何か、などのテクニカルな研究情報は WHO を中心にして世界で共有する必要がある。また治療薬の国際的な開発も進めるべきだ」と述べた。

参議院議員の武見敬三氏 (自民党新型コロナウイルス感染症対策本部長代理) は、感染症対策については国連と民間との連携、国際機関同士の連携の必要性を強調し、途上国にワクチンを供給する Gavi アライアンス (Global Alliance for Vaccines and Immunization を改称) に加えて、新型コロナでは先進国も含めた形でワクチンを開発分配することが必要になり、Gavi や CePI (感染症流行対策イノベーション連合) と WHO が主導して COVAX ファシリティ (COVID-19 Vaccine Global Access Facility) という仕組みが創設されたことを報告し、「こうした取り組みでは、EU 主導でも中国主導でも米国主導でもなく、ミドルパワーが新たな役割を担ったことが注目に値する。日本もこうした役割を積極的に担って、責任ある国家として我が国が国連改革・グローバルガバナンスの構築に貢献してほしい」と述べた。



尾身茂感染症対策分科会会長



武見敬三参議院議員

<軍縮セッション>

軍縮セッションでは、参議院議員の猪口邦子常任理事 (元国務大臣・元軍縮大使、

元軍縮会議議長)が、核軍縮の各条約の外交交渉と、東アジアをはじめとする安全保障に関する問題に言及した。また、環境・貧困・教育などにおけるSDGsの達成に多額の資金が必要であるにもかかわらず、現状ではこれが大きく不足していること、Covid19に関しても、発展途上国にとっては、栄養や食料など基本的なことが足りておらず、これを確保することが先決であることなどを強調した。

白眞勲参議院議員は、「核兵器禁止条約の発効で、核兵器を禁止するという当たり前のことが国際的に認められ、ヒバクシャへの援助も明記された。日本は核兵器の恐ろしさを、身をもって体験しており、この条約を自分のこととして考えるべきであるし、締約国会議にも参加するべきだ」と述べた。

国連事務次長の中満泉軍縮上級代表は、ビデオメッセージで核兵器禁止条約の意義を述べるとともに、来年8月に行われるNPT(核拡散防止条約)運用検討会議で核保有国と非保有国が歩み寄るべきだということなど、多国間主義の重要性を述べた。



猪口邦子参議院議員



白眞勲参議院議員

<環境セッション>

国連事務次長補の沖大幹国連大学上級副学長は、CO2の排出を実質ゼロにするには発電部門だけでなく、運輸部門や燃料を再生可能エネルギーに置き換える必要があることを指摘し、社会の急激な変革は弱者の負担となることから、弱者救済の観点からもグローバルパートナーシップに

も目を向けてほしいと述べた。

小泉進次郎環境大臣は、9月に日本と国連の共催で行われたOnline Platform for Re-designにおいて、コロナからの復興につ



小泉進次郎環境大臣

いては、コロナ以前の社会に戻すのではなく、「脱炭素社会」・「循環経済」・「分散型社会」へという三つの移行を目指すことが合意されたこと、「フード・ロス」の問題は有名になったが、輸入された衣服の半分ほどが一度も着られることなく捨てられているという「ファッション・ロス」の問題もあることなどを述べた。

環境省大臣官房審議官の土居健太郎氏は、国連と連携した廃棄物の再生利用の重要性について述べ、また、27カ国のアフリカ諸国と日本など諸外国が協力し、発展途上国の能力の向上とSDGsの達成を目的とした「アフリカン・インベストメント・プラットフォーム」について言及した。

<国連改革セッション>

国連改革のセッションでは、「日本はどのようにして国際連合とグローバルガバナンスにおける多国間主義の活性化を支援できるか」という問題を中心に、国連改革と多国間主義への協力を扱った。

まず赤堀毅サイバー政策担当大使が「法の支配」の重要性について言及したのち、「1990年代から安全保障理事会改革を目指し、理事会のメンバーの数を増やすように主張している。また発展途上国における国連代表の役割を拡張する必要性もある。国連安保理の改革と同時に、国連全体の改革を日本は望んでおり、引き続き行なっていきたい」と述べた。

続いて外交団からイナ・レーペル駐日ドイツ大使、ジャン・バプティスト・レセック

駐日フランス臨時代理大使、ハイツェ・ジューメルズ駐日欧州連合公使が見解を表明した。

最後に衛藤征士郎会長より、貴重な示唆に富んだ含蓄のある意見を交換できたことについて参加者に対し感謝の意の表明があり、「世界連邦国会委員会として参加者から述べられた意見を踏まえ、国連改革、人権問題、そして環境問題などの地球規模課題に対応していく所存である」と閉会の辞があり、一日目を終了した。

出席者は上記発言者のほか、以下の通り。

本人出席：〈自民〉阿部俊子氏、〈立憲〉小熊慎司氏・森山浩行氏・田島麻衣子氏、〈共産〉井上哲士氏、〈無所属〉上田清司氏・芳賀道也氏、〈元職〉牧野聖修氏

代理出席：〈自民〉石崎徹氏・加藤勝信氏・國場幸之助氏・左藤章氏・渡海紀三朗氏・中根一幸氏・西村明宏氏・西村康稔氏・三原朝彦氏・末松信介氏、〈立憲〉金子恵美氏・佐々木隆博氏・道下大樹氏・長谷川嘉一氏・山川百合子氏、〈共産〉倉林明子氏、〈国民〉浅野哲氏、〈無所属〉笠浩史氏

今回、世界連邦日本国会委員会事務局の谷本真邦次長が京都芸術大学の客員教授である縁もあり、谷本氏による企画や各界との調整の結果、国会委員会と京都芸術大学のコラボが実現した。産業界・学术界・政界・官界・宗教界・芸能界などの諸アクターが連携する良い機会となった。産学官民政宗等の連携をさらに深め、世界連邦の実現を目指したい。

*各氏の発言をもう少し詳しく記述したデータをご希望の方は、以下のメールアドレスにて塩浜までご連絡ください。

sekairenpou@beach.ocn.ne.jp

(塩浜 修)

出前平和学習—京都・大阪府支部—



世界連邦運動協会京都・大阪府支部では、2020年11月13日に大阪市立荊田小学校にて出前平和学習を実施いたしました。

小学校6年3クラス計98名を対象に、コロナ対策のため、学年全体への一斉授業ではなく1クラスずつ3回実施しました。

1回の授業は1限45分を2コマ実施し、1限目は世界連邦宣言自治体全国協議会が制作した『平和の種』を使用しながら、「広島・長崎への原爆投下」や「現在の世界での戦争や紛争」、「中東和平プロジェクト」について学んでもらい、子どもたちに戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えました。

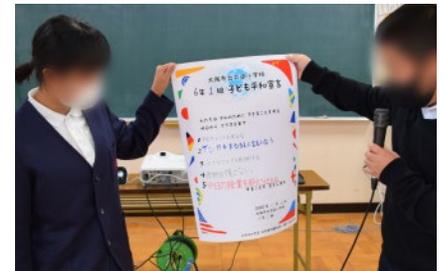
2限目は子どもたちに平和のために何ができるかを考えてもらうワークショップを実施しました。子どもたち一人ひとりから「平和のために自分ならどんなことができるか」を身近なことから考え、意見を出してもらい、最後にクラス単位で明日から取り組む目標『子ども平和宣言』を作成してもらいました。

子どもたちは1時限目では、当時の原爆の威力と現在の核爆弾の威力の比較をみて、現在の核爆弾がとても破壊力があり恐ろしいものであることを知り、声を上げて驚いていました。また2時限目ではホワイ

トボードに書ききれないほどの意見が出るほど、どのクラスも盛り上がったワークショップとなりました。

今回、荊田小学校の担当の先生からは「子どもたちが1年をかけていろいろと学んだことのおさらいができ、またそれを『子ども平和宣言』という形でアウトプットできたので、小学校で取り組む平和学習の総まとめにとっても適しています。また、子供一人ひとりが明日からできる目標として、身近なことに置き換えて目標を立てることができたこともとても良かった」と評価していただきました。

(税所 貴一)



世界連邦都市宣言70周年を記念しPR動画を作製—京都府綾部市—

京都府綾部市では、我が国初の世界連邦都市宣言（昭和25年10月14日）から70周年の節目を迎えたことを記念し、世界連邦をテーマにしたPR動画「未来へつなぐ平和都市 綾部」を作製しました。

動画には、核兵器を生み出した自戒の念から世界連邦運動を提唱したアルバート・アインシュタイン博士、湯川秀樹博士や同市の世界連邦都市宣言に大きく寄与した賀川豊彦氏（世界連邦建設同盟初代副会長）らの紹介、山崎善也綾部市長の実父で綾部世界連邦運動50年史（平成12

年発行）の編纂にも携わった山崎巖氏による解説のほか、同市での世界連邦日本大会（昭和45年、平成12年、平成27年）・エルサレム市との友好都市宣言（平成12年）・中東和平プロジェクト（平成15年、平成22年、令和元年）などを掲載。

作製は同市のコミュニティ放送局（株）エフエムあやべ）が担い、広島・長崎での取材や関係機関から入手した貴重な映像・写真を用い、これまでの世界連邦運動の歴史や、同市が全国に先駆けて取り組んできた平和活動の一端をおよそ13分にま

とめています。

動画はYouTubeでご覧いただけます。下記のURLまたはQRコードでアクセスしてください。

<URL>

<https://www.youtube.com/watch?v=6M1h8g0yvcl&feature=youtu.be>

<QRコード>



(鎌部 秀樹)

WFM国際事務局のウェブサイト

WFM 国際事務局のウェブサイトがリニューアルされました。わかりやすく最新のニュース、イベント、加盟団体の活動な

どの情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

URL <https://www.wfm-igp.org>



新年のご挨拶を申し上げます。

今後とも世界連邦運動をよろしく願っています。

令和三年 一月吉日

<p>世界連邦・北海道 代表 松藤日出男 副代表 日色無人 事務局長 押野善彦 次長 坂崎邦江</p>	<p>NPO法人 神戸平和研究所 理事長 柚 浩二</p>	<p>世界連邦運動協会会長代行 中野 寛成 twitter @nakanokansei</p>	<p>世界連邦近畿協議会 会長 三宅 光雄 事務局長 高畦 孝一</p>	<p>副会長・理事長 日下部 禧代子</p> <p>世界連邦推進日本協議会会長 世界連邦運動協会会長 第76・77代内閣総理大臣</p>	<p>海部 俊樹</p>
<p>世界連邦運動協会 埼玉県支部</p>	<p>世界連邦運動協会 愛善京都支部長 小佐々 晴夫</p>	<p>世界連邦運動協会広島支部 本部副会長・支部長 城 忠彰 理事長 神川 正紀 副理事長 河本 浩一 副支部長 藤井 正一 副支部長・事務局長 森下 峯子</p>	<p>世界連邦運動協会神戸支部 支部長 池上 徹 事務局長 平岡 五城</p>	<p>世界連邦運動協会 関東愛善会支部</p> <p>京都・大阪府支部 支部長 税所 貴一</p> <p>当支部では、今年も引き続き世界の恒久平和を築くために、大阪府内の小学校において、一人ひとりがこれからの世界平和について考える「出前・平和学習」を実施してまいります。 次世代を担う子どもたちのために！</p>	
<p>世界連邦近畿フォーラム</p>	<p>世界連邦日本国会委員会 世界連邦日本国会委員会は、一昨年十二月二十日に創設七十周年を迎えました。 政府が世界連邦実現に向けて最大限の努力をするよう、国内外の同志の皆さんとともに働きかけて参ります。</p>	<p>謹賀新年 コロナ禍のようなパンデミックに対応するためにもWFMをさらに推進しよう！</p>	<p>世界連邦運動協会石川県連合会 名誉会長 杉山 栄太郎 副会長 桑原 豊(会長代行) 副会長 上山 桂樹 理事長 平口 哲夫</p>	<p>大本・人類愛善会 小林 龍雄</p> <p>いま、一つの世界を 世界連邦宣言自治体全国協議会 会長 綾部市長 山崎 善也</p>	

<p>世界連邦運動協会 四国ブロック協議会</p> <p>愛媛県 松山市部 〃 新居浜支部 高知県 高知支部 徳島県 徳島支部 香川県 香川支部</p>	<p>世界連邦運動協会富士宮支部 支部長 佐藤 隆夫</p> <p>世界連邦加古川支部長 鹿多 証道</p> <p>世界連邦本部・国際副理事長 人類共栄会会長 三宅 光雄</p>	<p>大阪愛善会支部 支部長 伊藤 忠茂</p> <p>商売繁盛・縁結び・合格祈願 千代保稲荷神社 〒503-0321 岐阜県海津市三郷1980 海津市営バス海津羽鳥線 お千代保稲荷前バス停下車</p>	<p>世界連邦日本宗教委員会</p> <p>世界連邦21世紀フォーラム支部 理事長 木戸 寛孝 副理事長 松田 創 事務局 柴田 修</p>	<p>綾部世界連邦運動協会 会長 鹿子木 旦夫</p>	<p>世界連邦運動協会 豊中支部 支部長 星野 慎一</p> <p>司法書士・税理士 黒澤 合同事務所 東京都中野区中野四丁目四番十一号 電話 03-3388-9638</p>	<p>世界連邦日本仏教徒協議会 会長 叡南 覚範 理事長 可兒 光永 事務総長 水谷 栄寛 http://www.serenbutu.jp/</p>	<p>世界連邦運動協会 支部長 榎本 重夫</p>	<p>世界連邦運動協会町田支部 支部長 小塩 玄也 町田市玉川学園八-九-110六 松香光夫方</p> <p>有限会社 日本教育マネジメント 代表取締役 宮崎 太</p>	<p>株式会社 トイコー TEL 03-6416-5595</p> <p>バッグ・メダル・カップ・トロフィー・楯・旗・記念品 株式会社 アキバ徽章販売 TEL 03-5491-5786</p> <p>なぜか一番はじめてみてもいいから 目を惹く広告作りませんか</p>  
--	---	---	--	---------------------------------	--	---	-------------------------------	---	---

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

第49回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール ～ポスター部門審査会～



第49回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展は、2021年2月24日(水)～3月9日(火)まで、東京・市ヶ谷のJICA 地球ひろば2階ギャラリースペースで開催の予定です。

コロナ禍の影響がありながらも、今回のコンクールに全国からポスター部門では627点、作文部門では498点の応募がありました。12月22日に東京赤坂の世界連

邦運動協会の事務局でポスター部門の審査会が行われ、全国各地の地区予選を経て69点の優秀作品が集まりました。

ポスター部門の審査員は昨年に引き続き、廣畑正剛先生と一の瀬洋先生のお二人にお願いしました。審査会では、まず小学生低学年グループ、小学生高学年グループ、中学生グループ、以上三つのグループに分類して審査をはじめます。絵のうまさ、絵がテーマを訴える力、かけた手間、学年に応じたモノを見る目(子どもらしさ)などを勘案して採点していきます。ポスター1枚1枚を手に取り、「ユニークだね」「素晴らしい色づかいだね」「発想が良いね」など先生方の意見が聞こえてきます。じっく

りと時間をかけて審査していただきました。

69点すべてのポスターを先生方の後ろで観ていましたが、どの作品も力強く、個性があり、作者の思いが表現されていました。先生方の審査をする重責と大変さを感じた時間でもありました。審査の結果、文部科学大臣賞1名、特賞3名、湯川スミ賞1名、入賞7名、佳作5名が審査会で選ばれました。

作文の審査もまもなく終了予定で、2月初旬には各支部に受賞結果が通知されます。次回のニューズレター3月号でポスター部門、作文部門の受賞作品と先生方の審査講評をご紹介します。

(川口 美貴)

本部と支部の主な動き

* コロナ感染拡大の影響で変更になる可能性があります。

1月22日 核兵器禁止条約発効にあたって声明発表
2月18日 執行理事会

2月28日 第49回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール表彰式 (JICA 地球ひろば、展示は2月24日～3月9日)

編集後記

☆昨年は新型コロナウイルスに世界中が揺さぶられた一年でした。年明け早々に再度緊急事態宣言が発令されるなど今年も一筋縄ではいかない様相です。ワクチンが普及しても集団免疫効果が出るのはもう少し先になると予想します。それまでは、今の状況は続く覚悟を決めて、マスク、手洗い、密を避けるなど感染防止対策、自衛他衛の実践を継続していきましょう。新たな年を迎え、気持ちを新たに厳しい状況に立ち向かう決意を固めています。(川口) ☆中野寛成会長代行からお聞きして、1月5日の毎日新聞で社会学者の大澤真幸氏が「世界共和国」を提唱している記事を読んだ。世界連邦の会員以外からも国家を超えるシステムの必要性が主張される時代が来たようだ。(塩浜) ☆前回のアメリカ大統領選挙でトランプ氏が当選したとき、不適切な人が大統領になったものだと思っていたら、案の定、予想通りの悪い展開と結末になりました。民主主義が衆愚化し、トンデモナイ人物が国家のトップに君臨して、一国のみならず世界に弊害をもたらした例は歴史上いくつもありますが、バイデン新大統領には、アメリカ合衆国のみならず、世界が直面する共通の難題に率先して取り組み、世界連邦運動の視点からも支持できる成果をあげていただきたいと思います。(平口) ☆新型コロナウイルス感染が再拡大していますが、有難いことに会員・役員から感染したとの連絡を事務局はこれまでに一度も受け取っておりませんので、元気にお過ごしいただいているのではないかと安堵しております。とはいえ、油断は禁物ですので、これからも健康にはくれぐれもご留意ください。(野田) ☆新型コロナウイルスの流行は、国境に関係なく禍いをもたらす全人類共通の危機である。このことで、人類にも、ウィルスにも、ボーダーはなく、「世界は一つ」ということが、あらためて身に染みた。今年は、デジタル技術を活かし、世界の人々との対話をするなど、国境を超えた連帯を深めてこれを克服し、世界連邦運動を推進していきたい。(谷本)

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：野田武志・谷本真邦